

研究情報公開資料(オプトアウト用)

この公開情報をご覧になって、

1. ご自身が研究の対象になっているのかがよくわからない
2. 研究の内容や利用される試料・情報について詳しく知りたい
3. ご自身の情報が研究に用いられることを拒否したい

～この場合はお申し出により、試料や情報の研究への利用を停止します

などの場合は、下記 12.の「お問い合わせ先」までご連絡ください

研究管理番号 (受付番号)	YCR24017
1 研究課題名	Dupuytren 拘縮 100 手に対する手術法の検討
2 研究機関および 研究責任者 (研究分担者) (共同研究機関)	研究機関 医療法人社団あんしん会 四谷メディカルキューブ 研究責任者 手の外科・マイクロサージャリーセンター 医師 金原 由季 研究分担者 手の外科・マイクロサージャリーセンター 医師 平瀬 雄一 手の外科・マイクロサージャリーセンター 医師 岩城 啓修
3 研究期間 調査期間	研究期間 開始:院長許可後 ~ 終了:2025年4月30日 情報等調査期間 開始:2010年1月1日 ~ 終了:2025年4月30日
4 研究の背景・目的 ・意義・方法等	【目的】 現在, Dupuytren 拘縮に対する手術加療は部分腱膜切除術(limited fasciectomy)のうえ Z-plasty や V-Y plasty を用いて閉創する方法が主流とされている. しかし, この術式の 5 年後再発率は約 20%との報告がある. これは病的腱膜の完全切除が困難であることや, 術後の癒痕拘縮が原因として考えられる. そこで我々は, 2010 年より病的腱膜切離と皮弁形成(digitolateral flap もしくは ulnar parametacarpal flap)を併用した手術方法を多く取り入れてきた. 今回, 当科で経験した Dupuytren 拘縮に対して手術加療を行った症例から, 手術法とその適応を検討する. 【方法】 2010 年 1 月から 2024 年 9 月までの約 15 年間に於いて当科で Dupuytren 拘縮に対して手術加療を行った症例のうち, 経過観察期間が 6 ヶ月以上の症例を対象とした. 全対象症例に対して診療録記載内容をもとに術前・術後評価を行い, 手術法と併せて後ろ向きに比較し, 検討した.
5 研究の対象となる方	2010 年 1 月から 2024 年 9 月までの期間において当院手の外科・マイクロサージャリーセンターにて Dupuytren 拘縮に対して手術加療を受けた方
6 試料・情報等の 利用目的、利用方法	上記 4.に記載
7 研究に用いる試料・ 情報の種類(項目)	症例写真データ、リハビリ評価データ、手術記録
8 試料・情報を利用 する者の範囲	上記 2 と同じ範囲の者
9 試料・情報の 管理責任者	上記 2 に示した研究責任者

研究申請書/研究計画書 別添

10	計画書等の閲覧	研究計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧可能です。 下記 12.のお問い合わせ先までご連絡ください。ただし、知的財産権の保護等に支障がある場合は閲覧できないこともあります
11	その他の開示すべき情報	個人情報については、一定の条件の下で開示可能です。 下記 12.のお問い合わせ先までご連絡ください。ただし、他の対象者の個人情報に支障があるなどの場合は開示できないこともあります。
12	お問い合わせ先	<p><u>試料・情報が研究に用いられることについて、ご本人(あるいは代理人)が了承されない場合は、下記の連絡先までお申し出ください。</u></p> <p>連絡先所属:手の外科・マイクロサージャリーセンター</p> <p>氏 名:金原 由季</p> <p>住 所:東京都千代田区二番町7-7</p> <p>電 話:03-3261-0401</p> <p>F A X:03-3261-0402</p> <p>メ ー ル:y-kanehara@mcube.jp</p>

診療情報を研究に用いるにあたっては、個人情報保護のため個人を識別できない状態にして 6.の目的のためだけに使用します。また研究成果を学会や論文で発表する際は、「個人を特定できる情報を削除した上でデータ処理、解析」したものを使用します。